

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 主な学年のめやす: 高1後半～高2

この紙のゴール: 300～450語の初見の論説文を、段落の働きを追いながら読み、要点を自分のことばで書く / 目安15分(本文+設問)。本文はこの教材のための書き下ろし(初見用)です。

[1] A shop owner says that customers love the new opening hours. She has asked a hundred people in the shop, and ninety-four agreed. The number is real. Nobody counted wrongly. She is not trying to mislead anybody. And the conclusion may still be false.

[2] Asking people is a good idea, and it beats guessing by a wide margin. A shop that never asks anyone will get things wrong more often, not less. A number can be checked afterwards. An impression cannot. Numbers also settle arguments that opinions cannot settle, and a hundred answers are far better than the loudest voice in the room.

[3] But look at who was standing there to be asked. Everyone in the shop that morning was someone the new hours suited. That is not bad luck. It is the shape of the method. The people the hours did not suit were somewhere else, and they could not be asked, because they were not there.

[4] The same shape appears in many places. A club asks its members whether the meetings are at a good time. The people who left because of the time are no longer members. Nobody in the room did anything wrong. The survey is honest, the answers are honest, and the group that mattered most has already gone.

[5] So a number tells you about the people who were counted. The gap is not in the counting. It is in who arrived to be counted. It does not tell you about the people who never reached the counting, and those two groups are different in exactly the way that matters.

[6] When you next meet a number, ask one extra question. Not "is this true?" but "who is not in this?" It takes five seconds. Most numbers survive it. Some do not, and those are the ones worth knowing about.

〔語注〕 conclusion=結論 by a wide margin=大きな差で settle=決着をつける survey=調査・アンケート

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語(But / Yet / however)に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問1がそのまま解けます。

数えられたもののしか、数えていない 設問

年 組 番 名前 _____

本文（1枚目）を見ながら答えてください。

大問1 段落の働き それぞれの段落が、この文章の中でどんな働きをしているかを選ぼう。

(1) [2]段落の働きとして、いちばん合うものは？ 思考・判断・表現 答え（ ）

3点

- ア [1]段落の具体例を、くわしく挙げている
- イ 筆者の主張を、はじめて言い切っている
- ウ 反対の立場にも言い分があることを、いったん認めている
- エ 読者にしてほしいことを、提案している

(2) 筆者が「でも、そうではない」と切り返しはじめるのは、どの段落の最初の文？ 思考・判断・表現 答え 3点
（ ）

- ア [2]段落
- イ [3]段落
- ウ [4]段落
- エ [5]段落

大問2 内容の読み取り 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) だれにも聞かない店について、本文が述べていることは？ 知識・技能 答え（ ）

3点

- ア まちがえることが、かえって多くなる
- イ まちがえることが少なくなる
- ウ 客の数が増えていく
- エ 調査の費用を節約できる

(2) その朝、店にいた客はどんな人たちだったか。 知識・技能 答え（ ）

3点

- ア 新しい時間が合わなかった人たち
- イ たまたま通りかかっただけの人たち
- ウ 新しい時間が合っていた人たち
- エ 以前から店を知らなかった人たち

(3) クラブの調査の例で、筆者が言いたいことは何か。 思考・判断・表現 答え（ ）

3点

- ア 会員はうそをつくことがあるということ
- イ 調査は正直でも、大事な人たちがすでにいないということ
- ウ 会の時間はもっと早くすべきだということ
- エ 会員の数を増やす必要があるということ

大問3 書いて答える 本文をもとに、日本語で書こう。

(1) 筆者が数字を見たときにすすめている問いを、20字以内で書きなさい。 思考・判断・表現

5点

数えられたものしか、数えていない（基礎） | 解答と採点

解答 選択問題

大問1 段落の働き		
(1)	ウ	Asking people is a good idea ... a hundred answers are far better than the loudest voice で、調べることの値打ちを認めている。エは[6]段落。
(2)	イ	But look at who was standing there to be asked. が転換点。
大問2 内容の読み取り		
(1)	ア	[2]段落 will get things wrong more often, not less。
(2)	ウ	[3]段落 someone the new hours suited。
(3)	イ	[4]段落 The survey is honest, the answers are honest, and the group that mattered most has already gone。

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問3(1) 筆者が数字を見たときにすすめている問いを、20字以内で書きなさい。5点

だれがここに入っていないか。	
配点	その点を与える条件
3点	「入っていない人はだれか」にあたる内容がある
2点	「これは本当か、ではなく」という対比に触れている

「この数字は正しいか」と書いた答案は0点。筆者が退けているほうの問い (is this true?) をそのまま書いている。



数えられたものしか、数えていない（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

「データは正しいのに結論が間違う」という型で、統計を扱う入試英文の中心にある考え方です。譲歩[2]で数字の力を強く認めるので、「数字は当てにならない」と読んだ生徒は要約で必ず落ちます。芯は見えていないものを問うという一手で、[6]の提案（この表に載っていないのは何か）はそのまま探究学習の問いとして使えます。長文01～09を通じて最も抽象度が高いので、10本を順に配るなら最後に置くのが自然です。

型	観点	テストでの使い方
段落の働き	思考・判断・表現	論の展開の読解。数字の否定と選ばれ方の指摘を読み分ける
転換点の特定	思考・判断・表現	譲歩から主張への折り返しを1文で指させるか
内容一致／下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は選択、発展は和訳。関係詞と否定の範囲の精度
内容説明（記述）	思考・判断・表現	具体例のしくみを自分のことばで説明できるか
要約（20語）	思考・判断・表現	発展版のみ。譲歩・主張・結びの3要素で採点する

大問1は3版とも同じ問いです（段落が論の中でどう働いているか）。内容が取れているかではなく、論の運びが見えているかを測ります。

3つの版の使い分け

同じ英文の骨格（段落構成・論の運び）を保ったまま、語数・語彙・答え方を上げてあります（基礎300語=選んで答える＋日本語20字／標準380語=選択肢が英語＋日本語40字×2／発展450語=下線部和訳2・内容説明80字・英語20語要約の全問記述）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と学期をまたいで同じ英文に戻る—の3通りが使えます。③は「同じ話がどこまで読めるようになったか」を生徒自身が測れるので、学期末・学年末の振り返りに向きます。なお大問2以降は正解の記号を版ごとにずらしてあります（配り分けのときの写し合い対策）。大問1だけは3版とも同じ問い・同じ記号です—ここは測る力をそろえるための共通の骨格なので、あえて変えていません。